

■事例紹介「多様な学生サービスのあり方」■

「心と体の育成による成長支援 プログラム（活動報告）」

金沢大学
保健管理センター教授
吉川 弘明



はじめに

こんにちは。金沢大学の吉川です。今日は平成19年度から4年間にわたってさせていただきました、学生支援GPの取り組みについてご紹介したいと思います。このプログラムは保健管理センターが中心となって、全学的に行ったものですが、まずその前に金沢大学保健管理センターの行動規範をご紹介したいと思います。

保健管理センターは学生の保健管理に関する業務を行うことを目的としています。私たちは自分に対しても、社会に対しても幸せをもたらすような人材の育成を目指すということ、そして卒業生には長い人生を無事に送っていきける生活の知恵を身に付けて、卒業させたいと思っています。そして予防可能な疾患や状態に対して、積極的に介入する、これは心と体の両面からです。このような行動規範の延長線上に本学の学生支援GPの理念があります。

1 現代日本の健康問題

では「心と体の育成による成長支援プログラム」立案の動機、背景についてお話ししたいと思います。現代日本人の健康問題として、まず子供の心身の健康に関しては次のようなことがあります。現在の社会状況の変化に伴い、学校保健、食育、学校給食、学校安全にさまざまな課題が生じているのは周知のことだと思います。学校保健についてはストレスによる心身の不調など、メンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患を抱える子供への対応があげられますが、学校においては子供の状況を日々把握し、個別に的確な対応を図ることが求められています。また健康に密接に関係する食育に関しては、子供の食生活において、朝食欠食、偏食、孤食といった課題が生じています。

では大学生の心身の健康についてはどのようなことがいわれているのでしょうか。まず男子学生の肥満、女子学生のやせが顕著になっており、運動量の減少や体力の低下が起こっています。男女いずれも砂糖、アルコール、嗜好飲料の摂取量の増加があり、野菜や果実類の摂取量が不足しているという食事の問題もありますし、さまざまな問題の背景には睡眠の問題があるといわれています。疲れ、無気力といった精神的疲労を訴える学生が増えています。抑うつ、対人的不安、不登校、引きこもり、アパシー、自傷など、さまざまな精神的問題が生じている等、いずれも重大な問題です。

ではさらに職場のメンタルヘルスということについて考えてみますと、これが子供や大学生の問題の延長線上にあるということがよく分かります。労働環境、社会の仕組みが大きく変化して、雇用形態にも変化が起こっています。長時間労働、過重労働、またそれらを原因とする睡眠障害の増加があり、職場特有のハラスメントの問題があります。これらによってストレス、心の病気が増加し、関連して体の問題も生じていると考えられます。これら子供、大学生、社会人の問題は別々に、それぞれの立場で専門家が考えることが多いのですが、すべて連続した問題であり、統合的に考えなければ解

決しない問題だと思います。

教育の問題では知識のフラグメンテーション化が顕著になっていると思います。すなわちネット上には膨大な情報があります。検索すればいずれも簡単に手に入れることができるのですが、その人の知識として体系化されることがないということが大きな問題になっています。また携帯電話やメール、ブログ、SNS、「Twitter」などの普及によって、自分できちんと考える前に、媒体からいろいろな情報が入ってきて、思考が遮断、インタラプトされてしまっている。このような体系化されていない知識がいくらあっても、その本人にとっては何の役にも立ちません。今必要とされているのは、そういう断片化された知識を自分のものとする力ということになると思います。

お手元の資料を見ながら次の教育のマニュアル化ということでお話ししますが〔配付資料4ページ上段〕、これは教育のマニュアル化も大きな影響になっていると思います。どうしてもある一定のレベルを保つためにはマニュアルを作らざるを得ないわけです。その中ではなかなか学生の主体性が育たないという問題があります。学生相談の事例から考えますと、学生相談というサービスを利用しようという積極的な学生がいることも事実ですが、一方自主的には相談室にやっつけてくれず、担当の教員に連れられてくる学生もいます。

要するに自分で何が、自分の問題であるかが分からない学生、そういう学生が増えています。確かに金沢大学の中には自分で就職先を見つけて、飛び立っていく学生もたくさんいますが、一方では相談窓口をたたくことさえもできない学生がいるわけです。最悪の場合には不登校で自殺をして気が付くというような事例もあるのではないかと思います。

教育の問題を背景として、現代の大学生の特徴を示すと、経験不足で受け身的、非主張的である。とにかく頑張り続けて、ある環境に過剰適応してしまう。周りの意見や評価をすぐに気にしてしまうなどの側面があります。古典的自我というのは他者との調和を重んじる東洋的な特徴ということですが、一方何でもすぐに結果を求め、個別対応を求める傾向も最近顕著になっています。自己啓発、自己実現に興味があるといいますが、他者への援助には興味がなく、自己愛的傾向が強いという側面、つまり近代的自我です。

前者と後者は矛盾するのですが、これらの傾向が1人の学生の中に混在することも多々あります。すると自分で自分をコントロールできないでいるという事態に陥りますので、社会的に適応することも非常に困難になってきます。

現代日本の社会の問題に話を進めますと、失われた高度成長時代の社会形態を振り返るといったのは意味があると思います。高度成長の時代には理想的な状態だったという方も多いのですが、今は情報、雇用、生産のグローバル化が起こっていて、日本の企業で開発されたものでも、実際の生産は中国など、海外の拠点で行われており、日本の会社に就職しても海外に勤務するというような事態になることも多々あります。またこれまで夫々の地域にあった雇用がすでに必要なくなっているという事態もあります。いかにこれら新しい雇用をどう生み出すかということは今、一生懸命考えなければいけない時代になっています。

家庭、それから地域の役割についても考えなくてはなりません。夕方になるとお父さんが帰ってきて、一緒に食卓を囲むという、かつての光景はもうありません。それを懐かしがっていても、もうそこに帰ることができないというのが現状です。またこれまで大学はとにかく学生を卒業させればよかったのですが、今は就職支援に力を入れなければいけないという時代になっています。企業は採用時に学生の資質を实によく見ていて、企業の中で労働力として、その学生がどれだけ生産性を持って

いるかということに注目しています。ですので、大学は学生が内在する問題を、ただ先送りにして卒業させればよいということではなく、場合によっては企業と連携、さらに地域、社会と連携するという道を探らなければならない時代になっていると思います。

さて、以上のような問題から、私たちに今できることを考えたとき、『学生助育総論』をもう一度見直してみようと考えました。これは昭和28年に米国の数名の教育家たちが、日本の教育事情を視察して、置き土産と残していったものです。太平洋戦争後の日本の教育の現状と、今後の在り方を実際に視察して、記録、提案しています。そしてこの『学生助育総論』を超えた学生支援の鍵は、私たちは医師と臨床心理士の専門を越えた、コラボレーションにあるのではないかと考えました。

従来の学生支援に医師、この医師というのは、この私、学校医、産業医ということですが、この予防医学の視点を加えて、臨床心理士や、これまでの学生支援組織とのコラボレーションによる、新しい学生支援の形態を導入する、その結果が自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神も身に付け、社会の中に自分をどう位置付けるか、自分という資質をどう生かしていくかを知る、学生の育成になるのではないかと考えたわけです。

2 これからの学生支援

これからの学生支援というのは太陽の光に例えることができると思います。太陽の光のようにさらにいっそう育てるという考え方が必要です。もちろんどうしても下から支えて、押し上げてやらないといけない学生もいるのは事実です。それは個別の学生相談が対応する問題でもあると思います。しかし私たちはすべての学生が自ら育つ機会を提供したいと思い、私たちの学生支援GPを始めました。

それでは金沢大学の学生支援GPについてちょっとお話をしていきます。このプログラムは平成19年度の文部科学省選定事業、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援GPプログラム」に採択されました。GPとはグッドプラクティス (Good Practice) の略ですが、学生支援GPとは優れた学生支援のプログラムを選定する事業です。お手元の資料〔配付資料7ページ上段〕にありますような、社会的ニーズや問題を解決する人間性豊かな人材を育成するための組織的、かつ総合的な学生支援プログラムということになります。

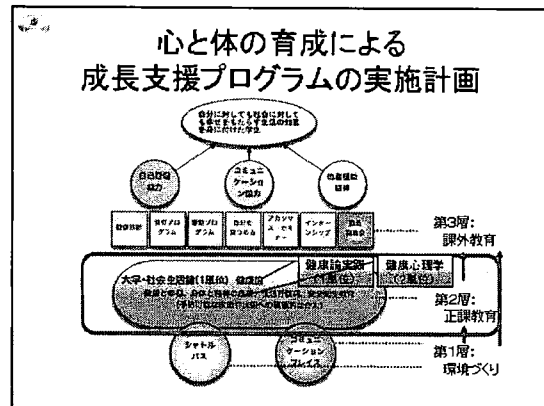
本学の「心と体の育成による成長支援プログラム」が学生支援GPに選定された理由はこのように公開されています。評価された点の1つ目は、講義等により学生に健康の意義を認識させ、自己管理能力を育成しようとする点です。2つ目は健康支援の着実な個々の取り組みを統合して、心身の総合的支援を目指そうとする点です。3つ目は心身の総合的支援を通して学生のコミュニケーション能力を育成しようとする点です。

3 心と体の育成による成長支援プログラムの取組の概要

それでは「心と体の育成による成長支援プログラム」の概要説明に入ります。本プログラムの主要な目的は、現代の社会的ニーズに対応する自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神の三位一体の能力です。これらはまったく関係ない能力ではありません。個人における関係性の調整が自己管理能力であり、個人と集団における関係性の調整がコミュニケーション能力と他者援助精神ということになります。

これら3つの能力を育成するために、実質3年間、実施してきたことはこのようにまとめられます。まず活動性を高め、他者との交流を促進するための環境づくりとして、2つに分かれているキャンパス間を結ぶ無料シャトルバスの運行と、居場所づくりとしてのコミュニケーション・プレイスの設置を行いました。また正課教育の中で新入生が自分のライフスタイルを再構築する時期に、健康論という90分の講義をすべての学類で実施し、健康意識の向上を図りました。次に実際に健康的な食事を作るとか、運動するとか、他者と円滑なコミュニケーションを行う練習ができる科目をテーマ別に新規開講しました。さらに多様なプログラムを課外教育として実施しました。

詳細はこの車の図に見立ててご説明いたします〔図1〕。本プログラムは大きく3層構造になっています。基盤としてのシャトルバスとコミュニケーション・プレイス、そしてすべての学生が大学入学時に受ける健康論という必須科目、さらに求めれば自由に選択できる選択科目や7つのプログラムがあります。その結果として自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を持った、自分に対しても社会に対しても幸せをもたらす、生活の知恵を持った学生が育成されることとなります。私たちはこのような学生を金沢大学の最大のブランドとして世に送り出したいと思っています。



〔図1〕

4 学生支援GP実施報告

ではシャトルバスから順に実施報告をしていきます。シャトルバスは平成20年に運行を開始しました。平成22年7月末までに延べ2万1,091人が利用しています。どれだけ多く利用したかというよりも、どのように利用されたかということが大事ですので、定期的に年2回、利用者アンケートを行ってきました。それによりますと、移動して全学サークルの活動に参加できて助かっているとか、GPのプログラムを含むさまざまなイベントに参加できていること、また運転手さんへの感謝の気持ちなどが確認できました。不慣れな留学生が安心して移動できる手段にもなっていることが分かりました。シャトルバスの運行は、施設部の職員の方々、学生部、GPスタッフなど、多くの方々の努力で実現し、運行してからは各地区の学務係の方たちが学生に周知をしてくださって、大いに利用されています。

次にコミュニケーション・プレイスです。金沢大学はかなり広いキャンパスを持っていますが、この中にいくつも黄色い枠で囲ってあるように整備することができました〔配付資料10ページ上段右〕。これはもともとスペースとしてありましたが、あまり利用されていないところを整備したものが多く、各地区の事務職員、施設委員会の教員とミーティングを持ち、ご協力いただいで実現したものです。その中でも多くの学生が利用しているのが、学生が集まる学生会館の大会議室で、これは学生支援GPカフェと名付けました。ここはこれまで一部の公認サークルが夕方利用しており、昼間は閉められていたのですが、時間限定で学生に開放することにしました。ここでは飲食をすることができるだけでなく、ステージでさまざまなサークルや個人が発表を行うようになり、サークル同士、サークルとサークルに入っていない学生の交流の場となっています。

こちらは学生支援GPに興味を持って集まってくれた学生たち、学生支援GPクルーが、GPスタッ

フ管理栄養士の高信さんの指導のもと、野菜たっぷりスープを販売しているところです〔配付資料 10 ページ中段左〕。自分たちで作れるように、作り方も学生がビデオを使いながら説明をしています。この企画は大変好評で、春夏秋冬の年間 4 回実施されるようになり、次のスープを心待ちにしている学生たちがいることがアンケート調査で分かっています。

次に正課教育についてお話します。ここにあります健康論というのは、大学・社会生活論という 1 年生の導入科目の 1 コマ 90 分で、平成 18 年度から実施していました。学生支援 GP で行ったことは、保健管理センターの教員である医師、臨床心理士で心と体の統合的健康を考えたテキストを作成しまして、講義の質を高めたことです。また健康論をセットしてない学類に働き掛け、すべての学類で講義を行うようにしたことです。健康診断を単位の必須条件として e ラーニング教材で健康診断の見方を解説して、自分の健康状況や自己管理に関心を持ってもらうようにしました。これには共通教育機構の先生方に大変力になっていただきました。

健康論は重要な役割を果たしていますが、90 分ですので浅く広く説明する講義になります。そこで実際に健康的な食事を作るとか、運動するとか、他者と円滑なコミュニケーションを行う練習ができる科目を新規開講しました。それが健康論実践という科目です。これは救急、食育、心理などのテーマ別に集中講義形式で、3～4 種類用意しました。この講義は学生の満足度が大変高く、2 つ目 3 つ目と履修する学生がいます。特に食育は抽選を行っている状態です。さらに平成 22 年度からは、後ほどご紹介する課外教育プログラムを講義化した、2 単位の健康心理学を開講しました。

これが大学・社会生活論のテキストです〔配付資料 10 ページ中段右〕。この中の一部に健康論という章があります。それからこれは〔配付資料 10 ページ下段右〕、e ラーニング教材の一画面で、必修とした健康診断の見方や、その意味についてまとめてあります。これは〔配付資料 11 ページ上段左〕集中講義形式の健康論実践 1、「救急蘇生と安全な大学生活」ですが、実際にこれは人を担架で運んでみて、他者を援助するということを体験的に理解する科目になっています。次にこれは健康論実践 2〔配付資料 11 ページ上段右〕、「生活習慣病予防を食事から考える」ですが、食育をテーマとした集中講義の一場面です。魚のさばき方を職人に教わり、一人一人が自分でさばいた魚をお刺し身にして食べます。金沢には板前や和菓子職人を生業とする人たちがいて、大変私たちの力になってくれています。

これは健康論実践 3「自己発見のためのグループワーク」ですが、心理コミュニケーションをテーマとした集中講義です。初めて会った学生たちが、こんなに自分のことをしゃべれるなんてと驚くほど学生が変わります。次が健康心理学で 2 単位の科目です。これは外部講師をお招きしている回ですが、そのような講義は公開して、課外プログラムとしても参加できるようにしています。

次は課外教育についてご説明します。課外プログラムには 7 種類を用意しています。順に写真でご紹介していきます。まず健康診断のフィードバックです〔配付資料 11 ページ下段左〕。これは管理栄養士が栄養相談を個別指導しているところです。これまで異常値がなくて再検査にならない学生にはフィードバックがありませんでしたが、学生支援 GP で結果をポータルサイトで見られるように整備して、希望者にはフィードバックをする仕組みをつくり、それが予防教育となって学生の自己管理に役立っています。

次は食育プログラムです。学校教育学類がある本学には調理実習室があり、家庭科教育の教員にご協力いただいて調理実習を行っています〔配付資料 11 ページ下段右〕。次は運動プログラムです〔配付資料 12 ページ上段左〕。これはヨガをしているところです。専門のインストラクターを学外から呼

んで指導をお願いしています。ここは図書館の中にある一室ですけれども、机といすを片付けてヨガやピラティスをやっています。次は自分を見つめるプログラムです。これは臨床心理士がグループワークをしているところです〔配付資料 12 ページ上段右〕。グループワークの実践については後ほどビデオで少しお見せできると思います。

次はアカンサス・セミナーです。アカンサスというのは金沢大学の校章になっているノアザミのことですが、セミナーですので、うつや感染症などの講義形式もありますが、多様な内容を扱っていて、これはプロのチェリストと学校教育学類の浅井先生にお願いして、学生支援G Pカフェでコンサートをやっているところです〔配付資料 12 ページ中段左〕。後でビデオをお流ししますが、この演奏をバックグラウンドミュージックに入れてあります。

次はアカンサス・インターンシップです。就職支援室のキャリアカウンセラー、古田土先生が学生に指導しているところです〔配付資料 12 ページ中段右〕。学生支援G Pで個別相談だけではなくて、グループワークで自己分析をする機会をつくることができ、学生たちから好評を得ています。最後に救急講習会です〔配付資料 12 ページ下段左〕。救急に関しては正課教育でもやっていますが、運動系サークルを中心に短時間の講義と実習でも保健管理センターの医師が繰り返しやっています。その甲斐あってか、幸い熱中症の発症はほとんどなくなっています。以上、多くの教職員の方々のご協力を得て、全学的な学生支援を進めることができたと思います。

そこで本プログラムをアメリカン・カレッジ・ヘルス・アソシエーション (American College Health Association)、これはアメリカの大学保健関係者の学会ですが、そこで発表してきました〔配付資料 12 ページ下段右〕。その結果、私たちの取り組みはこのように評価されました。自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神の育成が重要なことはユニバーサルである、健康教育を単位化していることは素晴らしいと評価されました。なぜリベラルアーツ、教養科目としてやっているのかという質問があり、健康は医療系だけでなくすべての学生に必要な知識だからと回答し、賛同を得ました。我々のこういう発表はインターナショナルスチューデント、留学生への対応として参考になるというご意見もいただきました。

私たちは 11 月 11 日に 4 年間のまとめとしてG Pシンポジウムを金沢大学で開催しました。そこで 3 名の外部評価委員の方々から講評をいただきました。その先生がたの講評の一部をご紹介します。お名前を伏せてありますが、こちらの先生からは、私たちの取り組みは最近の学生支援として課題とされていることに対して、その具体的な成果を得るための方法を提案するものであり、目標に掲げた自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神は、大学生が卒業時に身に付けるべき学士力と合致していると評価していただきました。

またある先生からは豊かな感情表現育成という観点から、十分な量、質のプログラムを実施していると評価していただきました。また心理的な問題と、その結果引き起こされる生理的変化、つまりメンタルとフィジカルの統合がよいと評価されました。またある先生からは全学的に推し進められていて、保健管理センターが全学生の健康教育を牽引した 1 つのモデルになり得ると評価していただきました。また健康診断から引きこもり予備軍の学生を支援の輪に入れた点、健康を測定値ではなくて質的にとらえて、少人数で、対面で五感教育を実施したことは、現代の学生に不足している根本の力を引き出そうとするという点で、とても素晴らしいというコメントをいただきました。

4 年間の学生支援G P終了後の予定ですけれども、正課教育の部分については共通教育特設プログラム、「健康・自己管理」の科目として継続、発展させていくことが決まっています。事業の途中で

ので、残りの部分は現在検討中になっています。

5 学生支援GPクルーとは

さて、最後に学生支援GP事業で生まれた学生グループについてご紹介したいと思います〔配付資料15ページ下段〕。学生支援GPクルーは、平成20年度に募集を開始しました。学生の意見を聞きたいということが募集の最初の目的でしたが、この事業を手伝ったり、自主的に参加したりすることでGPクルーが成長できるように、私たちは支援をしています。プログラムに興味を持って集まってくる学生が増え、平成21年度後期からは毎週定例会というミーティングを定期的に行うようになりまして、平成22年度からは医学系のもう1つのキャンパスでも隔週で定例会を開いています。

それではちょっと短いですが、学生支援GPクルーの紹介のムービーをお見せします。

<ビデオ上映>

これは食育プログラムです。わいわいみんな仲良くやっていますが、この中には管理栄養士と臨床心理士がファシリテーターとして参加していきまして、学生のコミュニケーションを促進しながらやっています。男子学生もこういうのが大変気に入って、好きで、一生懸命やってくれます。これはヨガをやっているところですね。職員の方も参加してくれるようになりまして、運動する楽しさをまず教えたいというのが私たちの願いです。無理のない運動をやるのが大切で、私も参加しています。この中にはGPクルーも混じって、一緒にやっています。

これは心理系のプログラムです。コミュニケーション能力を見ているものですが、この中には先ほどのGPクルーも混じって一緒にやっています。そして臨床心理士、この中に3名、今動いていますが、みんなのコミュニケーションを促すようにファシリテーターとして活動をしています。GPクルーもある意味ファシリテーターとしての機能も行っているわけです。こういうプログラムは大変人気です。いろいろと内容を変えてやっています。いつも笑いが絶えないという感じですね。

このバックに流れているのが先ほどのチェロの演奏になります。GPクルーの紹介です。町会の方からも大変かわいがられて、町会の夏祭りにも参加しています。中国からの留学生も入ってきて活発にやっています。これは食育のプログラムです。スープの試食会用にどのスープを作るかを検討しているところです。すべての学類の学生が入っています。また全学年の学生が入っていて、合計30名程度です。これはスープ試食会で学生たちがスープを販売して、反省会をみんなで行っているところです。

これは学生たちがおからクッキーを作り、角間キャンパスの近くにある田上新町の夏祭りで販売しているところです。大変好評で、200袋を完売しました。これはかき氷のお手伝いをしています。盆踊りも一緒にやったりしました。これは大きな鉄板でGPクルーたちが焼きそばを焼いているところです。こちらは、食育で加賀レンコンを使ったハンバーグを作っています。地物の加賀野菜をテーマに、いくつも食育プログラムを開きました。こちらは、大学門前町学生のまち推進協議会の発足式で金沢市長と協定書を取り交わしたところです。行政を含めた地域社会とも連携する体制が整ってきました。ムービーの最後に監督ということで私の名前が出ます。これは半分冗談ですが、私の役は何かというとコーチングということになります。学生たちを、この組織をどこへ導いていくかが私の務めになると思います。

このように今日、お話をしてきましたが、GP事業の推進から意外なことがいろいろ起こってきま

した。先ほどの金沢市長との面会があったわけですが、金沢市も「学生のまち推進条例」を作って、学生を大事にしよう、学生も町の住民も一緒にみんな育っていこうとする姿勢を示しています。大学も地域も行政も一緒になって、いろいろ活動をしているところです。町会もこれを力強くバックアップしてくださり、連合町会長、公民館長とも、一緒に活動も始めています。

それから補足になりますが、先ほどの健康教育というものはリベラルアーツであると言いましたが、私たち保健管理センタースタッフの活動の中には公開講座もあります。ここでは町の人たちに健康についての意識を変えるようなプログラムを提供しています。また、教員免許状更新講習が大学でやられていますが、私たちも養護教員、保健体育の教員対象に講座を開いています。大学にとどまらず、さらにもっと若い世代を育てる先生方とも意見を交換して、今何が問題になっているかということを考えながら、仕事を進めています。

以上です。どうもご清聴ありがとうございました。

質疑応答

【質問1】 本当に見事な学生支援で、素晴らしい成果を挙げていらっしゃる后感心しました。GPを取られた後の自立化策ですが、GPの際はどれほどのお金をもらって、自立化後はどういう財源で自立化を運転されているのか、そこをお教えてください。

【吉川】 ありがとうございます。1年間に学内負担も含め、だいたい2,000万円から3,000万円くらいをちょうだいしています。今年度は仕分けの影響で30%減になってしまいました。このお金を使って、さまざまな活動をやってきました。今年度の出費の内訳は、主にシャトルバスの経費、あとは人件費が主です。非常勤のGPスタッフの雇用、よい活動、講義等をやっている先生方を非常勤と呼ぶ経費として、予算を消化しています。

来年度からどうするかは、非常に大きな問題で、今、頭を悩ませているところです。まず基盤となる導入教育のところは、大学教育のシステムの中へ入れて、私たち保健管理センターの医師とカウンセラーで担当する形で進めていく予定です。そのときに、若干、外部の先生をお呼びしなければいけないので、その方たちは非常勤講師という形で、謝金を出すようにしたいと思っています。

それからバスに関しましては、今はなんとも言えない状況です。金沢大学はキャンパスが2つに分かれていまして、間をつなぐバスがなかったのですが、それは大学の移転後に生じた問題ともいえます。シャトルバスは、大変利用されており、それを何とかしたいのですが、なかなか財源がないので、頭を悩ませているところです。これは保健管理センターの問題ではなくて、全学的な問題になると思います。

あともう1つ、私たちの方で考えなければいけないことがあります。課外教育の部分で面白いものがたくさんあります。例えば先日あったのは和菓子作りです。30人くらい参加しましたが、半分くらい留学生でした。食育のプログラムでは、和菓子職人などの講師を呼んでいます。そういうプログラムを進めるにあたり管理栄養士、非常勤カウンセラー、看護師等の役割は大きいのでその雇用を確保することが重要ですが、今後どうするか、実はまだ明確になっていないところです。何とかいろいろ考えて進めたいと思っています。

【質問2】 私も前の大学で学生支援GPにかかわりを持っていたので、先生のお話は非常に興味深く聞かせていただきました。健康論や食育のことについては、取り組まれてきて、大学の定期健康診断

の部分ですとか、あるいは大学での休学の問題とか退学の問題で、そういう中でデータのいい方向に出ているのか、データの現れていることがあれば、ご教示いただければと思います。

【吉川】まず健康診断ですが、これが授業の必須科目となっているのは1年生だけです。受診率は99.7%だったかと思います。1人、受けない人がいるかどうかです。そういう学生は、実は入学していてもほかの大学を受ける準備をしているような人で、全然授業に出ていない人だったりしますので、実際に大学に来る人は、ほとんど100%、受けているということになります。

それから、数字的に申し上げますと、私たちは感染症対策をわりと早くからやっています、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎と水痘の抗体検査をして、抗体陰性の人たちには予防接種を呼び掛けています。抗体検査自体は無料でやっています。無料といいますが学生健保の余剰金を使っているわけで、予防接種に関しては個人負担です。ただ、予防接種も結構皆さん受けていまして、陰性者のうちの、ちょっと細かい数字は忘れてしまいましたが、半分以上の人は受けます。ですので、キャンパス内であれば感染症に罹患する可能性のある人たちは、かなり低くなっているということがあります。

それから、ほかのデータのなもので申し上げますと、金沢大学では学生生活実態調査というもの2年ごとにやっています。その中で学生たちに一番知名度の高い施設はどこかという保健管理センターです。ほとんどの人が知っていますし、利用もしています。個別の自由記載のコメントを見ますと、「お世話になっています」とか、「いつもいろいろなプログラムをやって楽しみにしています」とかあります。

就職率に影響があるかどうかとか、そういうのは私には分かりませんし、まだそんなところまで話はいかないと思います。ただ1つ、数字にはなりません、感じていることがあります。学生相談というものは、1対1で個室でやっているのがほとんどですが、先ほどのGPクルーの中には学生相談から入った人もいます。

例えば人付き合いがうまくいかない、友達が全然できないということで相談に来た人、そういう人の中からカウンセラーもしくは看護師が、「それなら、ああいうことをやっているから行ってごらん」ということで、GPクルーというグループの中に入って、そこで非常に成長した人がたくさんいます。町会の大人たちにもまれ、いろいろな人にとって話をしたりしながら、びっくりするくらいよく話すようになり、自分の意見をしっかり言うようになって、それで就職先を決めて卒業していった人が何人もいます。彼らは、先ほどの夏祭りのときにもOBとして来てくれて、非常に頼もしい存在になっていました。

また、GPクルーの中には肥満のために食事指導を受けて、管理栄養士の勧めを受けて入った人もいます。いろいろな食育プログラムをやって調理の知識も身につけて、ますます自己管理を続けている人もいます。あまり強調しませんが、GPクルーというグループは、実はボランティアのグループでもありながらピア・サポートのグループでもあって、それから教育の場でもあるという形で運営しているのです。以上です。

(日本学生支援機構平成22年度全国学生指導担当教職員研修会報告書『大学等における学生支援の役割・機能を考える』より許可を得て、転載)

資料集

金沢大学 学生支援GP

心と体の育成による 成長支援プログラム 活動報告

金沢大学保健管理センター
吉川弘明

金沢大学保健管理センター職員発表会 2010年11月28日(金)

金沢大学保健管理センター の行動規範

- 自分に対しても社会に対しても、幸せをもたらすような人材の育成を目指す。
- 卒業生には、長い人生を無事に送っていける生活の知恵を身に付けさせる。
- 予防可能な疾患や状態に対して、積極的に介入する。
 - 生活習慣病や頭痛などのフィジカルな問題
 - うつ病や不登校などのメンタルな問題
 - 感染症などの環境要因による問題

現代日本人の健康問題 子どもの心身の健康

- 現在、社会状況等の変化に伴い学校保健、食育・学校給食、学校安全に様々な課題が生じている。
- 学校保健については、ストレスによる心身の不調などメンタルヘルスに係る課題や、アレルギー疾患を抱える子どもへの対応にあたって、学校において子どもの状況を日々把握し、的確な対応を図ることが求められている。
- また、食育・学校給食については、子どもの食生活において朝食欠食、偏食、孤食といった課題が生じており、学校において食育を推進することが求められている。

「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」(文部科学省HPより)

現代日本人の健康問題 大学生の心身の健康

- 男子学生の肥満、女子学生のやせが顕著になっている。
- 運動量の減少や体力の低下が見られる。
- 男女いずれも砂糖、アルコール、嗜好飲料の摂取量が増加し、野菜や果実類の摂取量が減少していた。
- 健康白書95ではすべての学年で男女とも半数以上が睡眠不足と答えている。
- 「非常に疲れている」「少し疲れている」をあわせると72%になり、精神的疲労を訴える傾向が見られた。
- 抑うつ、対人不安、不登校、引きこもり、アパシー、自傷など、さまざまな精神的問題がある。

「学生と健康」(国立大学法人保健管理施設協会2001より)

現代日本人の健康問題 職場のメンタルヘルスの問題

- 労働環境の急激な変化、非正規雇用の増加
- 長時間労働、過重労働
- 睡眠障害の増加
- ハラスメント(職場いじめ)

↓

- ストレス、心の病気(精神疾患)増加の現状

「平成19年労働者健康状況調査」(厚生労働省HPより)

現代日本の教育問題 知識のフラグメンテーション化

- 知識のフラグメンテーション化
 - ネット上に偏在する膨大な情報群(誰もがアクセス可能であるが、本当に必要な情報はわからない)のさらなる肥大化
 - グローバル化と多様化がこれまでにない速さで進行し、情緒的な思考が妨げになるとすら感じられる時代的背景
 - 携帯電話、携帯メールなどのコミュニケーション・ツールによる、思考の断片化
- 体系化されずに、生かされない膨大な情報(知識)
- 知識の詰め込みよりも、それを使って考える「生きた力」が必要とされている

現代日本の教育問題 教育のマニュアル化

- 管理的、過保護的な教育で主体性が育っていない
- 相談に来ない学生の中に自分から助けを求められないサポートが必要な学生が存在する

相談に来る学生

- サービスを利用しようとする積極的な学生
- サポートが必要な学生

相談に来ない学生

- サポートなしでやれている学生
- サポートが必要な学生

不登校、引きこもりなどで教員、家族に連れてこられる

↓

自傷など事態に発展する

現代日本の教育問題 現代の日本人大学生のの特徴

- 知性はあるが経験不足、特に感性を使っていない
- 受身的、非主張的、素直で影響されやすい
- がんばり続けることが普通→過剰適応
- 場面適応が得意だが、アイデンティティがあいまい
- 周りの意見、評価を気にするが、直接確認するのを恐れる
- 数値での評価やすぐに結果を求める
- 集団の中から学ぶことが苦手で、個別対応を求める
- 自己啓発、自己実現に興味があるが、他者援助に興味がない→自己愛的

↓

近代的自我(西洋的な自己へのこだわり)と古典的自我(東洋的の他者との調和)が並列的にすりこまれて、状況によって内的乖離を起している。→社会的ひきこもりとも関係

現代日本の社会問題 失われた高度成長時代の社会形態

- 情報、雇用、生産のグローバルズム
- 旧来の雇用の消失と新しい雇用創生の困難
- 家庭、地域の旧来の機能の喪失
- 大学固有の問題として片付けられない諸問題

到達すべき目標

- 学生助育総論(昭和28年)を超えた学生支援
- 医師と臨床心理士のコラボレーション

↓

社会の中に自分をどう位置づけるか、自分という資質をどのように社会に生かしていくのかを知る学生の育成

これからの学生支援

心と体の育成による成長支援プログラム

—社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成—

学生支援GP

= Good Practice
= 文部科学省に選定された優れた取組です

学生支援GPとは

- 文部科学省選定事業「新たな社会的ニーズに対応した学生支援GPプログラム」=学生支援GP
- [目的] 学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラム(Good Practice)を選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図るものです。

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)

目的: 学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムの中、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラム(Good Practice)を選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図る。

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム実働委員会 (会長: 校長、学部長)

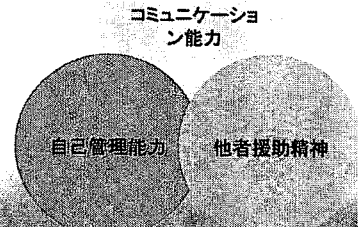
多様な学生 (経済的支援、精神的支援、身体的支援) → 現在の学生支援の取組 (学習支援、生活支援、就職支援、健康支援、メンタルヘルス支援、進路支援、海外学習支援、学生生活上の支援、教育への支援、障害のある学生への支援 など) → 新たな取組 (新たな取組(新たな取組)) → 期待される効果 (学生が学習に集中できる環境作り、学生生活の様々な悩みへの対応、学生の人間力の成長の促進、多様な学生の学習意欲の喚起、様々な社会的課題に対応)

ポイント: 目的・ニーズや学生のニーズに対応した取組の実施、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラム(Good Practice)を選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図る。

選定理由

- ・ 金沢大学においては、心身の健康支援において着実な取組が行われてきています。
- ・ また、今回申請のあった「心と体の育成による成長支援プログラム」の取組は、「健康論」等により、学生に健康の意義を認識させ、自己管理能力を育成することを目的とした特徴ある取組です。
- ・ 着実な個々の取組を統合して、大学の実情にあった支援プログラムに展開させようとする試みです。特に、学生のコミュニケーション能力を育成する取組は、他の大学等の参考となる取組であり、心身の総合的支援が行われることを期待します。

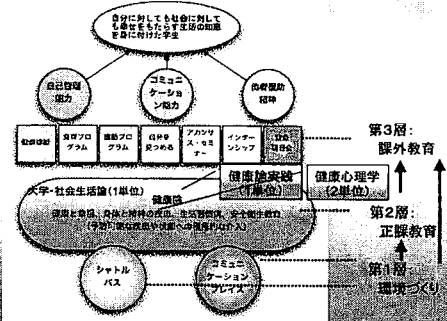
目標：三位一体の能力の育成



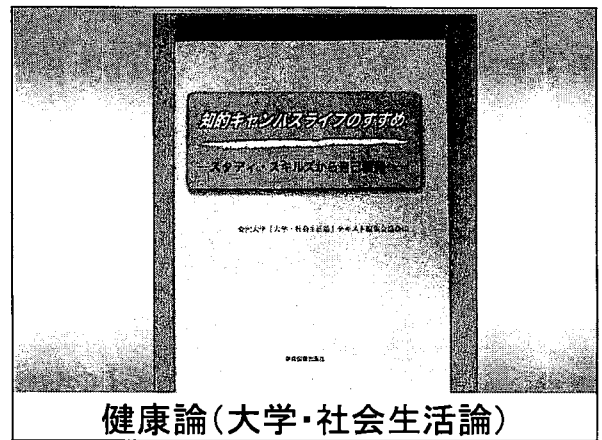
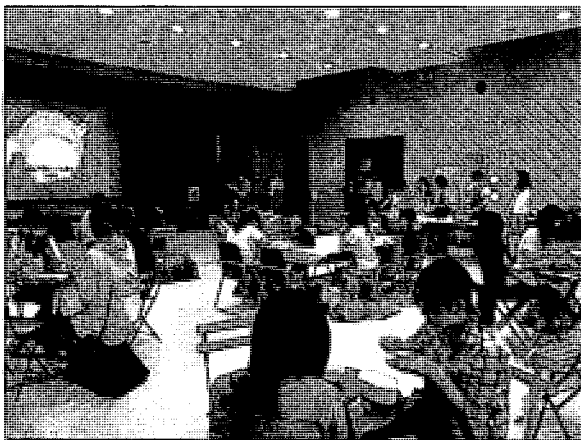
心と体の育成による成長支援プログラムの取組の概要

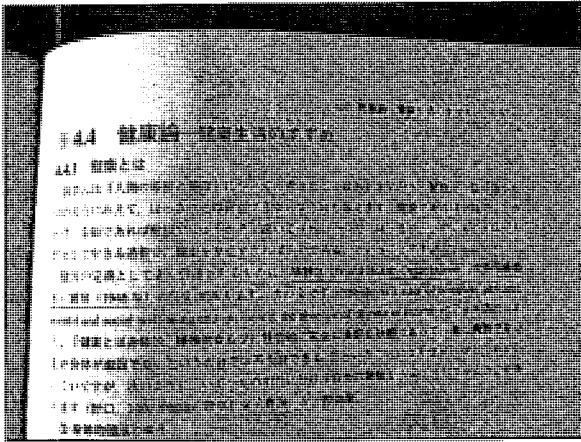
1. 環境づくり
 - キャンパス間シャトルバスによる交流支援
 - コミュニケーション・プレイスによる交流支援
2. 正課教育
 - 必修科目：講義（概念学習）による健康意識の向上
 - 選択科目：実践（体験学習）による行動の促進
3. 課外教育
 - 多様なプログラムによるきっかけづくり

心と体の育成による成長支援プログラムの実施計画



シャトルバス





定期健康診断履歴

体重の推移、視力・血圧の変化は自分で知っておくこと

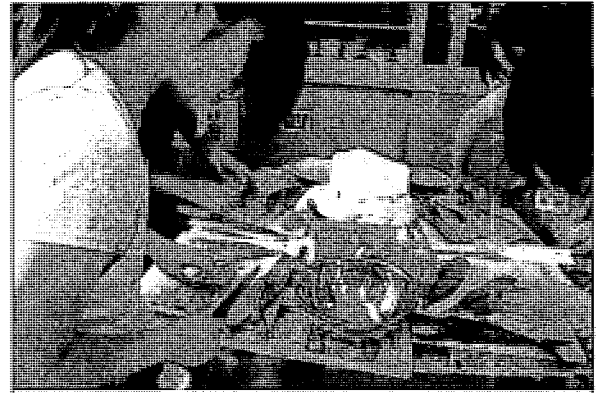
再検査は期日までに受診を！
受診していないと
就職活動・課外活動・実習で
必要な健康診断証明書は
発行されません

血液検査の結果は1年次のもの
実習等で抗体価提出を
求められたら
このページを印刷して提出を！

項目	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
身長					
体重					
視力					
血圧					
血糖値					
尿酸値					
肝機能					
腎機能					
脂質					
ヘモグロビン					
尿潜血					
尿蛋白					
尿糖					
尿ビリルビン					
尿潜血					
尿蛋白					
尿糖					
尿ビリルビン					



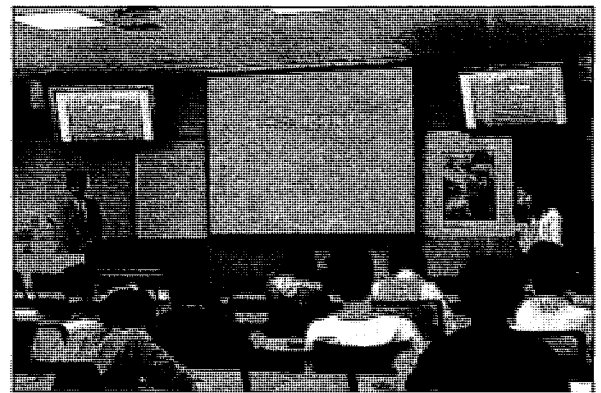
健康論実践1 救急養生と安全な大学生活



健康論実践2 生活習慣病予防を食事から考える



健康論実践3 自己発見のためのグループワーク



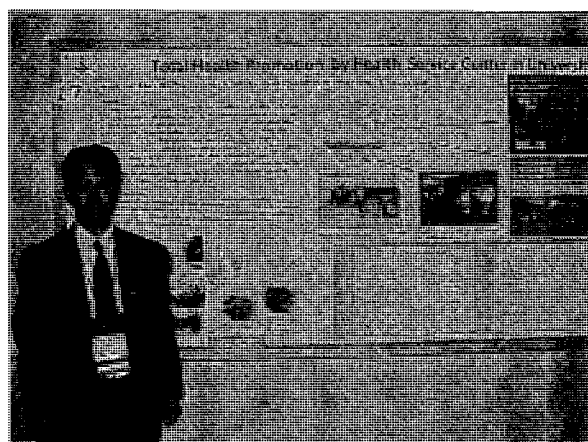
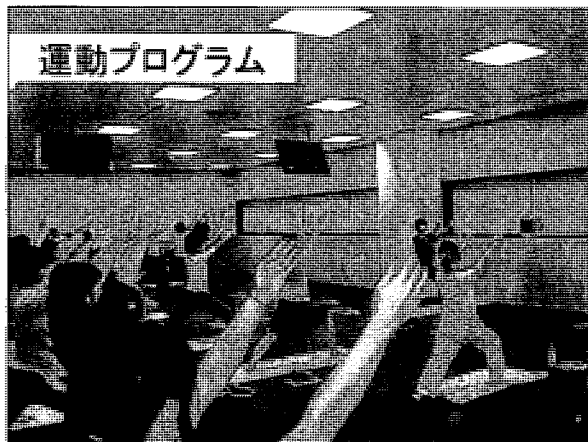
健康心理学 公開セミナー(うつ、精神疾患)



健康診断のフィードバック



食育プログラム



発表へのアメリカ人の反応

- 自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神の育成が重要なことはuniversalであると評価された。
- 健康教育を単位化していることはすばらしいと評価された。なぜLiberal arts(教養科目)の単位なのかと質問されたことには、「健康は医療系だけでなく、すべての学生に必要な知識だから」と回答した。
- われわれの発表はInternational Studentsへの対応として参考になるとの意見があった。

外部評価委員の講評一部(A氏)

- 最大の特徴**
 - 目的が「成長支援」にあり、対象が全学生であること。
 - 学生を「(目指す)社会人として」成長させること
- 取組の基本**
 - 最近の学生支援として課題とされていることに対して、その具体的な成果を得るための方法を提案するもの。その求める成果は、次のような人材を育成する仕組み(方法)を確立(開発)すること。また、これを実施し、方法の有効性を立証すること。
 - 「自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神の三位一体の能力を備えた人材の育成」
- 「学士力」との関係**
 - コミュニケーション力 → 汎用的技能
 - 健康管理能力(自己管理能力) → 態度・指向性
 - 他者援助姿勢 → 態度・指向性
- これらは従来型の正課の授業の中では養成が難しい課題
- 本取組では、これを達成するための有効な方法を開発しようとしている。その創意・工夫とユニークさにもう1つの特色がある。

外部評価委員の講評一部(B氏)

■「豊かな感情表現育成」という観点からの評価・期待

1. シャトルバスと「場」の提供
 - 「感情の社会化・共有」の観点から、コミュニケーションを促進する道具立てとして評価できる
2. 健康論
 - 自分を自覚するために重要な機会。特に心理的(メンタル)な問題とその結果引き起こされる生理的変化(フィジカル的)を理解できることが重要
3. 食育プログラム
 - 食を通して味覚を刺激し、それによって引き起こされる感動なりの感情を表現する機会を実際に調理することを通じて得られる
 - 地元食材や郷土料理などの身近な題材により、親近感を通じて感情を刺激できる
4. アカサスセミナー
 - 色や響りなどの五感を刺激するセミナーにより、感性や感情を刺激する機会を得られる

★全体的にプログラムの量・質の高さが素晴らしい。それらの連携・シナジーに期待します。

外部評価委員の講評一部(C氏)

・全体について

- “社会に幸せをもたらす生活の知恵をもった学生の育成”=われわれが見失っている主観的、質的価値をあえてとりあげた挑戦的取組
- 副学長(教育担当)を中心に大学教育開発・支援センター、共通教育機構など全学的に推し進められている点が素晴らしい
- 保健管理センターという専門家の組織が病気だけでなく、全学生の健康教育を牽引した1つのモデルになりうる

・各取組について

- 健康診断を初年次教育に組み込んだことで、引きこもり予備群を支援の輪に入れたことが有効
- 健康を測定値ではなく質的にとらえて、少人数で、対面で、五感教育を実施したことは、現代の学生に不足している根本の力を引き出そうとする点でとてもすばらしく、共感する

学生支援GP終了後の予定

- ・ 正課教育は共通教育特設プログラム「健康・自己管理」の科目として継続、発展
- ・ 必修科目
 - 大学・社会生活論の健康論(前期、1年生、1/15)
- ・ 選択科目
 - 健康論実践(集中講義、7.5/7.5、1単位)
 - 健康心理学(前期、15/15、2単位)
- ・ 課外教育は他のGPで継続するなど検討中

学生支援GP

= Good Practice

= 文部科学省に選定された優れた取組です

学生支援GPクルーとは

- ・ 1) 活動内容
 - 学生の心と体の育成を支援する事業に関わる学生スタッフです。
 - 定例会での発言、広報活動、クルー企画の準備・実施など、基本的に学内ボランティアです。学内アルバイトを優先的に紹介します。
- ・ 2) 定例会
 - 学期期間中木曜日の昼休み(12:00-12:50)に行います。
 - 場所は自然研の保健管理センター南分室の面接室1です。
 - 途中入退室可。
 - お昼は各自用意。食べてから来る、もってきて食べるなど、自由。
- ・ 3) 連絡
 - gp-crewというメーリングリストに連絡をします。一定期間活動をお休みしたい、メールを止めてほしいということも可。